

アニマルランド NEWS

わんぱーくこうちアニマルランド
№96 Oct 2019



新園長のご挨拶
葉月ココ、再び母になる
日本のサンショウウオ展

4月から9月

- 4/2 トサシミズサンショウウオ 搬出
- 4/3 臨時開園
- 4/7 わんぱーくこうちまつり
ジャガー ハクのお別れ会 開催
- 4/14、5/3,4,5,6、6/2、7/7、8/11、9/15
裏側探検隊 開催
- 4/16 ジャガー ハク 搬出
- 4/29 第22回 カブトムシ飼い方教室 開催
- 5/15 ニホンカモシカ ハツヤ 搬出
- 5/19 スマトラトラ アカラの誕生日会(ワンプoint)
- 6/26 ヨーロッパフラミンゴ フ化 (1羽)
- 7/2 オシドリ フ化 (3羽)
- 7/14 カブトムシすもう大会 開催
- 7/18~9/3 夏の企画展「日本のサンショウウオ展」
- 7/21 足摺海洋館からミニ水族館 来園
- 7/29、30 サマースクール 開催
- 8/10 ジャガー ココの誕生日会(ワンプoint)
- 8/22、9/9,11 ショウジョウトキ フ化 (3羽)
- 8/15 台風10号のため、臨時休園
- 9/1 ジャガー ルモの誕生日会(ワンプoint)
- 9/16 敬老イベント 開催
- 9/22 足摺海洋館でミニ動物園 開催



大盛況のクイズ大会

1



アニマルランドで生まれたジャガーのハクが
沖縄こどもの国に移動しました。ハク元気
でね。



ヨーロッパフラミンゴの親子



ニホンカモシカのハツヤもとくしま動物園に
移動しました。ハツヤも元気でね。

カモシカのハツヤ
搬出

のできごと

ミニ水族館



今年も足摺海洋館と交流イベントをおこないました。足摺海洋館からは海の生き物たちがアニマルランドにやってきました。アニマルランドからは、モルモット、ウサギ、インドホシガメ、ボールニシキヘビが出張しました。どちらのイベントも大盛況でした。

ミニ動物園



祝・敬老の日

敬老の日にはチンパンジーの名ーさんニッポンツキワケマのワカさんのお祝いをしました。名ーさんは好物のつまたプレゼントボクスからブドウを真先にとってほおばりました。ワカさんはクマの形をしたムシ芋や果物の入った氷をおいしそうに食べていました。そのほかの敬老動物たちにもお祝いのメッセージをいただきました。



果物入り氷のプレゼント

新園長のご挨拶



吉澤 未来 新園長

今年4月に園長になりました吉澤です。慣れない仕事で毎日あたふたしています。今はほとんど事務所でパソコンまたは書類とにらめっこの日々です。3月までカモシカの担当者を数年していたにもかかわらず、雌のカモシカのササに「あんた誰？」という態度をとられ傷ついた心を、なぜか私を好いてくれるチンパンジーのタローさんがいやしてくれます。こうして毎日動物たちの顔を見られる仕事につけた、幸せを感じます。

私は静岡県浜松市の出身です。幼稚園の卒業文集ではペットショップの店員さんになりたいと書いていました。小学校で「ドリトル先生航海記」に出会い、獣医師という仕事を知ってから、将来は獣医師になると決めていました。その後大阪府立大学獣医学科に入り、解剖学講座かいぶくに所属していました。私が高知に来たのは、5回生の夏の講座旅行が初めてでした。あの時はまさか高知で働くことになるなんて、思いもしませんでした。卒業後は小動物臨床りんしやうの道に進もうと考えていましたが、学生のうちだから経験出来ることをと思い、6回生の春休みに大阪市天王寺動物園の実習に軽い気持ちで行きました。たった2週間でしたが、様々な経験をさせてもらい本当に楽しかったです。そこから全国の動物園水族館に電話をして、獣医師の募集がないか聞くことを始めました。私が動物園獣医師を希望しているのを知った教授が、「こんなのあるよ～」と見せてくれたのが、わんぱくこうちアニマルランドの募集でした。そして私はアニマルランドの一員になることが出来ました。

初めに担当したのはふれあい動物でした。バードハウスのカナダガンに体当たりされたり、寝起きのムササビが肩に乗ってきておもらしされたり、すぐにいろんな洗礼せんれいを受けました。体力的にも非常に厳しかったのですが、なにより一番辛かったのは保護で入ってくる幼い鳥たちが死んでしまう事でした。ここで必要なのは、大学では教えてくれないことばかりでした。毎日毎日なんとか仕事をこなしていてもう20年以上たち、私の人生で一番長く住んだのも高知になりました。

私が実習に行った当時の天王寺動物園の獣医師の先生方は、他の動物園に籍を移していますが今でもお世話になっています。まったくもって頭が上がりません。あの経験がなければ動物園業界に入ろうと思わなかったし、高知に来ることもなかったです。そう思うと、あの時の私の行動を「よくやった！」とほめてあげたいです。



幼獣で保護され、人工哺育したニホンリス

動物園や飼育されている動物を取り巻く環境は、私がこの業界に入った頃と様変わりしています。私達でさえ、その変化についていくのは難しい面もあります。来園者の皆様が「あの動物が見られなくなる？」とがっかりされることがこれから起きるかもしれません。世の中が変わっていくように動物園も変わっていきます。それでも動物たちと来園者の皆様が幸せになれる動物園を目指してがんばりますので、これからもアニマルランドを応援してください！よろしくお願いいたします。



葉月ココ、再び母となる ～ジャガーの子育て2019～



3月23日、ジャガーのルモと葉月ココの間に子どもが生まれました。今回で二度目の出産です。子どもは5日齢の身体測定でオスと判明しました。体重は1725g。2017年生まれの子（オス。現在は沖縄こどもの国にいます）が4日齢で1180gでしたので、「体は少し大きいけどハクより小顔」という印象でした。その後も、15日齢でハクは2230gなのに対し2950g。30日齢では3580gと4420g。一見小柄な印象ですが動きもしっかりしています。春先で温かいので早々に展示場デビューの計画をたてることになりました。

ですがここでひとつとても大きな心配が。それは10連休という超大型連休です。はじめての子育ての時、ココは展示時間ずっと場内を歩き続け、鳴き続け、かなりピリピリと神経をとがらせていました。それは長い期間続きました。さいわい子どもに対して攻撃的になることはありませんでしたが、今回も無事とは限りません。少しでもココが安心して子育てできるようにすることが最優先。一般公開は連休明けと決め、母子を展示場に慣らす訓練をはじめることになりました。

はじめての訓練は5月4日、閉園後に行いました。子どもははじめて見る景色に驚いている様子で、なかなか出て行けません。初日は外に出ない、もしくはココが出さないと予想していました。ですがココは子どもを置いてさっさと展示場に出て行ってしまいました。これでは子どもはさぞ不安だろうと思いきや、こちらにも続いてトコトコと歩いて行きました。ココも止める雰囲気すらありません。さすがに数分もたつとココも心配になったのか、呼び寄せて戻って行きました。初日で上々すぎる手ごたえです。翌日も閉園後に展示場へつながる扉を開けたところ、母子ともにササッと出て行ってしまいました。ありませんか！ これは予想外です。ココにいたっては、こどもがいることを忘れているのではないかとにかくつろぎようです。「えええ～っ、大丈夫なの…」とこちらがハラハラするほど、させたいようにさせていました。そろそろ陽も暮れて来たから帰ろうとこちらがうながしても、ココは子どもを呼び寄せることさえありません。はじめての子育ての時には、必死に子どもをくわえて連れ帰ったというのに。一般公開するにあたって確かめておかねばいけないのは、きちんと部屋に帰ってくれるかどうかということです。結局、二日目にして半時間ほど子どもは自由に展示場内で遊んでいました。なかなかの大物っぷりです。ココもまるで別ジャガーのような落ちつきようです。

この後、開園中の展示訓練を数度へて、無事に一般公開を迎え、現在にいたるまでココの二度目の子育ては順調そのものです。子どもの名前は投票によって『リンド』と決まりました。ジャガーの生息地の一つであるブラジルの公用語ポルトガル語で「美しい」という意味です。大変なヤンチャですが、名前のおとり両親に似た器量好しに育っています。

二度目にしてすっかり肝っ玉かあさんが板についたココと、のびのびと成長していくリンドを、どうぞこれからも見守ってください。

(山崎由希)



初めての屋外



生後4か月



水遊び 生後6か月

夏の企画展 「日本のサンショウウオ展」



トサシミズサンショウウオ

毎年夏に開催されている企画展。今回は「日本のサンショウウオ展」と題して、サンショウウオの不思議や魅力を紹介しました。（7月18日から9月3日まで）

サンショウウオと聞いてまず思い浮かぶのが「オオサンショウウオ」という方が多いのではないのでしょうか。実は日本各地にはオオサンショウウオを含め、45種類（令和元年6月末日時点）ものサンショウウオが生息しています。しかもそのほとんどが20cm以下の小型のサンショウウオです。

今回の企画展を開催した目的は、まず日本に多くのサンショウウオがいることを知ってもらい、サンショウウオに少しでも興味を持ってもらおうというものです。お客さまの中で日本に多くの種類のサンショウウオがいることを知っている方は少なく、オオサンショウウオ以外の小型のサンショウウオがいることを知らない方もいました。企画展を通じて少しでも知ってもらうことができればよいと思い企画しました。もう一つの目的はトサシミズサンショウウオを知ってもらうことです。アニマルランドでは2000年からトサシミズサンショウウオの安定した産卵場の確保を目的に、人工池の整備を進め、産卵状況などの調査・保全活動を行っています。トサシミズサンショウウオは高知県土佐清水市のごく一部のみに生息するサンショウウオで、最新の高知県レッドデータブック（2018改訂版）では、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）にランクされ、絶滅の危険性が最も高い種となっています。これまでは九州に生息するオオイタサンショウウオと同じ種とされていましたが、DNA検査などによって2018年に新種と認められました。この貴重なトサシミズサンショウウオを知ってもらい、今後も生息していける環境を保護していかなければなりません。

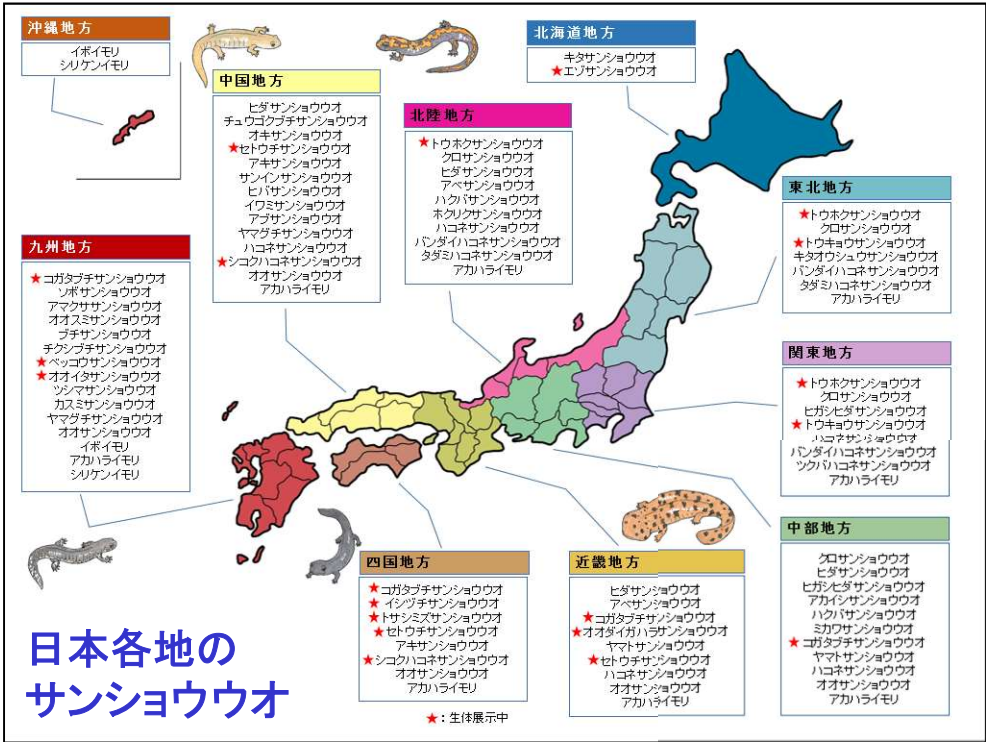
「日本のサンショウウオ展」と題して開催した企画展ですが、サンショウウオが何の仲間か知っているのでしょうか？カエルやイモリと同じ両生類の仲間です。両生類は「サンショウウオ目」「カエル目」「アシナシイモリ目」と大きく三つに分類され、サンショウウオはこの中の「サンショウウオ目」になります。サンショウウオ目の特徴は、同じ両生類のカエル目と違い、成体（おとな）になっても尾があります。幼生（子ども）は成長とともに四肢が生え、水の中でえら呼吸をしています。成体（おとな）になると肺呼吸になり、陸上でも生活できるようになります。（オオサンショウウオは例外的に生涯水の中で暮らします）同じサンショウウオでも生息する環境の違いがあり、溪流や沢などの水の流れのある場所に生息する流水性（イシヅチサンショウウオ、シコクハコネサンショウウオなど）、池や沼、水たまりなどの水の流れのない場所に生息する止水性（トサシミズサンショウウオ、オオイタサンショウウオなど）に分かれます。このようなサンショウウオの基本的な情報をパネルを使って紹介しました。

生体展示では、高知県に生息するトサシミズサンショウウオをはじめ、11種類のサンショウウオを展示しました。サンショウウオが石やコケに隠れ、なかなか見えづらい状態ではありましたが、熱心に探して見てくれているお客さまもおられました。それぞれのサンショウウオがどんな色をしているのか、どんな形をしているのか、どんな場所に生息しているのかなど、それぞれの違いが見えて少しサンショウウオに興味をわいてきたのではないのでしょうか。今回展示したサンショウウオの多くは、普段は残念ながら展示場のスペースの関係で、バックヤードで飼育され、お客さまに見てもらうことができなかったのが現状です。そのバックヤードでのエサやりや管理の様子もパネルで紹介しました。多くの方はどのように管理しているか知らないと思うので、興味深く見ている方もおられました。今回の企画展で多くのサンショウウオを見てもらうことができたので、非常に良かったと思います。

多くのお客さまがこの企画展に来ていただきましたが、お子さんに人気があったのは、サンショウウオのぬり絵コーナーでした。ぬり絵を貼るスペースには毎日多く貼り付けてくれ、その完成したのを見るとそれぞれの個性が出ていて、おもしろかったです。お子さんがパネルなどを見て理解するのはなかなか難しいと思うので、このように楽しんでもらって少しでもサンショウウオのことに興味を持ってもらえるとうれしいです。お子さんだけでなく、大人の方も楽しそうにやってくれて、こちらもうれしくなりました。ぬり絵以外にも、クイズや絵描き歌、サンショウウオドリル、自由帳などありましたが、どれもみなさん楽しんでくれたと思います。その他に当園スタッフが撮影したサンショウウオの写真を展示しました。それぞれのサンショウウオの特徴をとらえた写真ばかりで、こちらも好評でした。県内で見ることのできない種類の写真も多く展示することができました。

今回の企画展でサンショウウオの事を紹介しましたが、絶滅の危機に瀕している種類も多くいます。サンショウウオは私達人間と同じ自然の中で暮らしています。森林伐採や道路整備、河川の改修などによってサンショウウオが生息する環境が減り、サンショウウオが少なくなる、いなくなることも考えられます。それをなくすためにも、サンショウウオの事を知って、すみかとなる自然を大切に、サンショウウオとともに幸せに暮らしていける環境を守っていくことが大切ではないのでしょうか。

(山本将充)



オオイタサンショウウオ



イシヅチサンショウウオ



シコクハコネサンショウウオ



コガタブチサンショウウオ

あにまるきゃっち★ №28



ギャラリー入口で、パンダ募金をして下さっているご家族をキャッチ。

左から

窪田 ^{なつか} 夏花ちゃん(4才)
直美さん ^{なおみ}
瑛太くん(6才) ^{えいた}
嘉仁さん ^{よしひと}

高知市からのご来園です。

瑛太くんの好きな動物はカメ、夏花ちゃんはウサギとのことでした。

撮影日は9月29日でふれあい広場はお休みでしたが10月1日から再開です。また遊びに来てね♪

10月から3月のイベントとお知らせ

10月6日(日)、11月10日(日)、12月22日(日)

2月23日(日)、3月22日(日) 14:30～

1月2, 3日(木・金) 13:30～

裏側探検隊 各日先着20名

参加者全員にアニマルランドカードプレゼント♪

10月27日(日)

動物愛護のつどい

11:30～動物慰霊祭

13:00～15:00 動物クイズラリー

12月1日(日)13:00～14:30

第19回 いきもの講座

「動物園がなくなる!?熊本地震から感じた動物園と社会のつながり」と題して、熊本動物園の副園長、松本充史さんにお話ししていただきます。

先着順で参加者募集!! 11月9日(土)10:00から受付。

参加対象小学生から大人。

園内案内所受付または、電話、ファックス、Eメールのいずれかで氏名・年齢・電話番号を記入の上お申し込みください。先着30名。

12月12日(木)～2月4日(火)

2020年えと展「実はすごいネズミ展」

子年にちなんで、ネズミの仲間に関する展示をおこないます。

3月下旬から4月上旬

わんぱくこうちまつり

日・祝 14:30～

(裏側探検隊がある日曜日は前日の土曜日に変更)ワンポイントガイド

動物の解説を飼育スタッフがおこないます。

3月25日(水) 臨時開園

※先号より年2回の発行となりました

動物たちのエサの時間

キツネザル	毎日 10:00～
リクガメ	毎日 10:30～
チンパンジー	毎日 13:30～
フラミンゴ	毎日 14:00～

※ 動物の体調により中止になる場合があります

表紙「ジャガーの親子」

2019年10月1日発行

発行・わんぱくこうちアニマルランド

〒781-8010 高知市棧橋通6-9-1

TEL088-832-0189 FAX088-834-0929

Eメール kc-171204@city.kochi.lg.jp

編集 久川智恵美

<http://www.city.kochi.kochi.jp/deeps/17/1712/animal/>

アニマルランドニュース 4, 10月の年2回発行

ホームページでも配信中

わんぱくこうちアニマルランド

検索